平成27年3月2日(月)

産経新聞

号外

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞大阪本社2015
〒556－8660 大阪市浪速区湊町2－1－57
☎ 大阪(06)6633-1221 (大代表)

聖地・花園 決まった

2019年ラグビーW杯 東大阪「市民力だ」

神戸も歓喜 京都は涙

ラグビーの2019年ワールドカップ（W杯）日本大会の開催地が2日発表され、東日本大震災で被災した「岩手県・釜石市」、全国高校大会が行われている花園ラグビー場のある「大阪府・東大阪市」など12会場に決まった。立候補した15の自治体から、仙台市、京都市、長崎県が落選した。ほかの開催地は札幌市、「埼玉県・熊谷市」、東京都、「神奈川県・横浜市」、静岡県、「愛知県・豊田市」、神戸市、福岡市、「熊本県・熊本市」、大分県。

ラグビーのW杯に関西から立候補していた3自治体のうち、大阪府東大阪市（大阪府と共同立候補）と神戸市は開催地に選ばれたが、京都市は落選。明暗が分かれた形となった。ラグビーの聖地と呼ばれる花園ラグビー場がある東大阪市は順当に選ばれるとみられていたが、野田義和市長や市職員、市民ら約350人が参加したパブリックビューイング会場は緊張した様子。開催が決定すると、大きな歓声が起こった。

発表開始前から近くの神社で開催を祈願した自治会長の平川康照さん(78)は「町を挙げて誘致のためにがんばってきた。活気あふれる東大阪になる」。野田市長は「誘致しようという『市民力』が勝因。これから開催地にふさわしい花園ラグビー場、東大阪市をつくっていきたい」と喜びを語った。

昨年11月にノエビアスタジアム神戸（神戸市兵庫区、収容人数約3万人）で、日本代表とマオリ・オールブラックス（ニュージーランド）の国際親善試合を開催した〝実績〟をもつ神戸市も、担当職員らがくす玉を割って開催決定を祝った。

残念ながら、開催地に選ばれなかった京都市では落胆の声が上がった。落選の一報に、京都市の門川大作市長は「ご英断いただきたいと期待しておりましたが、実現しなかったことは残念」とコメントを出した。

全国高校大会で過去4度全国制覇をした伏見工高のOBとして、京都市への誘致をサポートしてきたラグビー元日本代表の大八木淳史・京学園理事長も残念そうだったが、「キャンプ地を誘致できれば、京都の子供たちがトッププレーヤーと交流するチャンスもある」と、新しい目標を掲げた。

2019年ラグビーW杯日本大会の開催地に「聖地・花園」が入り、手をたたいて喜ぶ東大阪市民ら＝2日夜、大阪府東大阪市（安元雄太撮影）

産經新聞
購読のお申し込みは 0120-34-3733
産経WEST sankei.com/west/
FUJISANKEI COMMUNICATIONS GROUP